

富士南麓における森林の復元活動 — 2011年の活動報告・2012年活動計画 —

自然再生活動部会／中村華子

当クラブでは2003年から、関東森林管理局静岡森林管理署と「山の自然学クラブ・富士山森の復元活動」という協定を締結して、富士山の国有林で森林復元活動を行っています。活動地は1996年9月の台風17号により人工のヒノキ林が被害を受けた後、広葉樹林を再生しようとしている場所です。参加して下さっている方には活動の際にお話しているとおり、天然林を目指しているということは、(1) 自立した森林を最終目標に、(2) 多様性を高めながら、(3) 遷移を進めること を目的に管理・保育作業することが活動の目的となります。これからも「自然のしくみに学び、より自然のプロセスに近く、より人間の関与を少なく」を指針にしていきます。より一層、楽しく有意義な活動になるよう、みなさまと協力しながら進めていきたいと考えております。

2011年の活動報告と2012年の活動計画について報告いたします。

2008年6月に5年協定の2期目に入り活動9年目となった今年、ますます多くの方を受け入れて植樹や保育作業、自然観察会を行いたいと考え、計画をしておりました。しかし2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、私たちの生活や社会全体にも多大な影響がありました。この活動についても、計画を大きく変更せざるを得ませんでした。

私たちは「自然の成り立ちに学び、自然にあわせた活動をして、森を育てながら自分たちも成長する」ことを目標に活動しておりますので、無理をして活動することはできません。さいわい、2011年の活動を中止した団体は2団体とも、2012年は活動すると申し出て下さいましたので当会としても受け入れを決定致しました。来年が楽しみです。

協定林では引き続き、ツタが木を覆ってしまったり、ササが林床に増え過ぎたりしないように現地を継続的に観察するとともに、植栽する樹種をさらに増やすこと、補植の場所を細かく計画することなど、よりきめ細かく高度な管理を進めていきたいと考えております。また各種団体の植樹活動・ボランティア活動の受け入れや環境教育への協力も進め、今後も活動の裾野を広げたいと思います。

富士山国有林では他にも同様の活動をしている団体がありますが、それらの団体により「富士山国有林森づくり連絡協議会」がつくられ、当会も参加しています。この協議会への参加も継続し、関係諸団体と連携を取りながら地域全体を見つめた活動を続けます。

協定林について

場所：富士山国有林200林班 た小班4.56 ha

協定活動内容：「観察・記録・刈り出しなどの手入れを行い、従来の富士山の植生への復元・最善の育林方法の実施を目的とする行動」

「環境教育を目的とした活動」

協定期間：2008年6月－2013年6月（2008年に更新し、2期目）

2011年度活動実績（日程ごとの詳細は下の表に掲載）

活動日数 のべ5日間

参加者数 39人 うち会員12人 非会員27人

採取した種子の種類 2011年には ミズナラ、アサノハカエデ、オオイタヤメイゲツ、オオモミジ、カジカエデ、コミネカエデ、チドリノキ、ホソエカエデ、アオハダ、キハダ、クマシデ、コブシ、マユミ、ミズキ、ヤマボウシ、アブラチャン、エゴノキ、カマツカ、コクサギ、サワフタギ、タンナサワフタギ、ダンコウバイ、ツリバナ、ナナカマド、ヒロハツリバナ、クロモジ、ミツバウツギ、ミヤマイボタ、ミヤマガマズミ、ムラサキシキブ、リョウブ、ウツギ、キブシ、ノリウツギ、ヤマハンノキ、ケヤマハンノキ 以上36種を採取しました。現地や会員宅、東京農業大学などで育苗し、現地に順次戻していく予定です。

《2011年活動報告・日程ごと》

日程	開催形態・作業内容	参加人数	内訳	
			会員	一般
3月	協議会総会に参加／富士市総合庁舎		事務局都合により延期	
4月	協定林現地作業 ・5月観察会のルート決定、現況調査		NTT,若葉の植樹が中止となったため中止	
5/14-15	<山の自然学現地講座> ・山取苗等を補植 ・自然観察会、インプリ活動 NTT労組東日本総支部のボランティア活動・自然観察会 80名程度を受け入れ予定だった		東日本大震災の影響により中止とする	
5/28-29	<山の自然学現地講座> ・山取苗等を補植 ・自然観察会、インプリ活動 俳句 若葉の記念植樹・自然観察会 50-60名程度を受け入れ予定だった		東日本大震災の影響により中止とする	
6/25	協定林現地作業 ・農大から、育成して頂いた苗を現場へ移動 ・マメザクラの種子採取 /周辺天然林より	4	1	3
7/30-31	協定林現地作業 ・ススキ・低木下刈り、ツル切り作業	11	5	6
10/22-23	<山の自然学現地講座> ・種子採取（協力：東京農業大学治山・緑化学工研究室）	19	4	15
10/30	苗床への播種、追加の種とり	5	2	3
合計人数		39	12	27

2011年に採取した種子（果実）の一部



森づくりの活動評価<炭素吸収量>について

活動に参加して下さっているみなさまは、当初の一面のススキ草原から現在の低木林になったところを実際に見ていて、植生のボリュームが大きくなったことを実感して下さっていることと思います。そこで、私たちの活動している協定林がどのくらいの炭素を吸収しているといえるのか、2011年の実績を計算致しました。この計算値は林野庁の作成した幹の体積（材積）から計算する簡易な計算方法で計算したもので、実際に現地で測定した値ではありませんが、おおよその効果を判定することはできると考えられます。

静岡県から頂いた収穫表によると、10年生広葉樹林の材積は15 m³/ha、15年生では30 m³/ha、この間の年間成長量は3.0 m³/haだということです。

林野庁によると、森林吸収量は以下の計算方法を使って推定します。

<p>吸収量（炭素トン／年） = 幹の体積の増加量（m³／年） × 容積密度（トン／m³） × 拡大係数 × 炭素含有率 幹材積は、樹木の種類と林齢がわかれば平均的な幹材積を調べることができる「収穫表」を利用して計算します。</p>

以上の情報から計算した、静岡県に位置する山の自然学クラブ協定林での炭素吸収量は以下の通りです。

富士山森林復元活動における、森林整備及び補植による年間炭素吸収量

作業内容：下刈り等保育（4.56ha）および広葉樹補植（年間500本）

1999-2000年に初期植栽（遷移の始まり）、2003年～保育作業＋補植を開始

場所：静岡県 林種：広葉樹人工林 2011年の林齢＝11年

内容		年間固定量
林齢 11年（齢級3）	保育作業4.56ha	27.16791 トン
補植 広葉樹	樹高30cm×500本	2.38315 トン
炭素固定吸収量	上記2つの合計	29.55106 トン

※2011年度は補植が中止になりましたので、実際には保育作業による吸収量のみが固定されたと考えることとなります。



左：2004年9月撮影
草丈約1.5mのススキが覆っていた



右2枚：2010年撮影
作業する人が隠れる程の群落高に成長

《2012年活動計画》 ※詳しい日程は未定です

これまでに引き続き、季節に応じて年数回の現地講座と、1-2ヶ月に一度程度の部会活動を予定しています。現地講座では会員以外の方に多く参加していただき、森林再生の活動とともに自然観察会なども行います。また、引き続き各種団体の受け入れを積極的に行っていきたいと思っております。会員の皆様にご協力いただきこれまでいくつかの団体を受け入れてきておりますが、活動の裾野を広げ、社会的認知を広める意義のあることと考えます。また私たちにとっても、勉強になり、新鮮な気持ちになれる、いい機会であると考えております。今後も会員各位のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

<年間の主な活動内容>

- ・春前 - 芽生えの前に現地へ苗を持っていきます。冬期に荒れた林地の整備と地拵え
- ・春 - 植栽適期です。補植、挿し木などを中心に行います
4月21日 NTT労働組合のみなさんと植樹・自然観察会の予定
5月12-13日 俳誌若葉のみなさんと記念植樹・自然観察会の予定
- ・夏 - 梅雨明けからススキ、ササ、ツタが一気に伸びますので、下刈りを行います
- ・秋 - 種子採取、山取苗の採集

他団体の活動受入予定 <2012年度予定>

・NTT労働組合東日本総支部の社会貢献活動

組合員が参加する社会貢献活動の一環として自然保護活動を企画。2006年にボランティア推進委員で試行的に実施、2007年以降支部全体の行事として正式に受け入れております。2012年もこれまでと同程度の規模で受け入れできるよう準備します。

・俳誌“若葉”記念植樹

昭和3年に富安風生により創刊された俳誌「若葉」の通巻1000号にむけた記念事業の一環として富士山での植樹、自然観察会等を希望。2011年5月28日、29日に最初の受け入れを予定していましたが、震災を受け中止になりました。しかし中止を決めた際に、必ず日を改めて実施することを約束致しまして、2012年の同時期、5月に受け入れをさせて頂くことになりました。みなさんの句会を見学させて頂くことも楽しみです。

Yahoo!ボランティアの寄付増加にご協力お願いします

2007年度からYahoo!の「インターネット募金」に採用いただきました。下記のサイトで富士山森林復元活動への募金を掲載しています。引き続きご協力をお願いします。

<http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/index.html>

東京農業大学からの協力について

この活動で採取した種子の多くを、東京農業大学 治山・緑化学研究室にて精選・管理・保存して下さっています。植栽用の苗木育成も一部お願いしております。そのほか、会の活動全般に関して様々な面でサポートを頂いております。福永先生、橘先生をはじめとする研究室の皆様の多大なるご協力をここに記し、深く感謝申し上げます。